

家族が大きく変容している中で、家庭教育のあり方に新たな課題が生じています。映画を通して、ジェンダーの視点から、子育ての悩みや喜び、そして家族、夫婦、親子のあり方など、家庭教育に関する課題について考えてみませんか。講師には、月刊「女性教養」のシネマ女性学でおなじみの松本侑壬子さんをはじめ、多彩な方々を予定しています。

ジェンダーの視点からの家庭教育セミナー

映像に学ぶ 子育て女性学

◆実施期間 平成10年1月23日～2月14日(全5回) ※日程はプログラム参照

講師
 松本侑壬子 (ジャーナリスト)
 長津美代子 (群馬大学助教授)
 春日キスヨ (京都精華大学教授)
 清水真砂子 (児童文学者)
 熊谷博子 (映画監督)

上映映画
 「みれあうまち 向島・オッペンゼン物語」
 「ディス・イズ・マイ・ライフ」
 「生まれてはみたけれど」
 「につつまれて」
 「アントニア」

会場 日本女子会館
定員 80人(先着順)
時間 午後1時～4時
受講料 5,000円

主催 日本女子社会教育会

申込み 〒105 東京都港区芝公園2-6-8 日本女子会館
 問合せ TEL 03-3434-7575 FAX 03-3434-8082

家族ってなに…?

12/4 「加恵、女の子でしょ!」
97年/日本/16ミリ
ヒトは女に生まれたい、女の子でしょ!といわれながら女になってゆく…。出光真子監督の最新作。

12/6 「のら猫の日記」
96年/アメリカ/35ミリ
孤児姉妹マニーとローが、放浪生活の中で見つけた家族とは…。血のつながりを超えた絆とは何かを問いかける。新人女性監督グリューガーの長編デビュー作。

12/4 「普通の女性」
80年/アメリカ/16ミリ
理想の家族の崩壊。親子の絆、夫婦のあり方などを深く追求した秀作。1980年アカデミー賞受賞作品。

12/5 「ビヨンド・サイレンス」
96年/ドイツ/35ミリ
聾啞の母親のもとに生まれ育った少女ララの成長の軌跡。97年ドイツ映画最大のヒット作品。

ジェンダーの視点からの家庭教育セミナー

映像に学ぶ 家族女性学

今年度は「家族」をテーマに、映画を通して、今、家族の何が問われているのかを、3日間集中セミナーで探っていきます。松本侑壬子さん(ジャーナリスト)を中心に、多彩な講師の方々が登場、「ビヨンド・サイレンス」(’97東京国際映画祭グランプリ作品)「のら猫の日記」など最新作を含むごたえある映画を鑑賞します。

1998年12月4日(金)・5日(土)・6日(日)

◆時間 10:00～16:30(6日は午前のみ)
 ◆会場 日本女子会館
 ◆定員 80人(先着順)
 ◆受講料 5,000円(3日分)

申込み 〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-8 日本女子会館
 問合せ TEL 03-3434-7575 FAX 03-3434-8082

主催 日本女子社会教育会

▲松本侑壬子 (ジャーナリスト) 12/4～6
 講 出光 真子 (映像作家) 12/4
 山田 昌弘 (東京学芸大学助教授) 12/4
 師 森田 ゆり (エンパワメント・センター主宰) 12/5
 ▼ 宮迫 千鶴 (画家・エッセイスト) 12/6



ジェンダーの視点からの家庭教育セミナー 1997(平成9)年・1998(平成10)年度

映画鑑賞と多彩なゲストのトークを通して、家族、夫婦、親子のあり方を考えるセミナー。

上：セミナーチラシ

下左：松本侑壬子(映画評論家・セミナー全体講師) 右下：熊谷博子(映画監督)